

令和4年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

＜事後評価＞

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	R4-事後-1						
課題名	岡山県産天然アユを用いた資源回復研究						
課題の概要	アユ資源が減少している一因として冷水病の蔓延が知られている。一方、過去の研究から天然魚由来の種苗や天然遡上アユは冷水病耐性が高いことが明らかになっている。そこで、岡山県産天然アユを親魚に用いた種苗放流を普及することでアユ資源の回復を図る。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	有効性（効果）	1人	2人	2人	0人	0人	3.8
	有効性（目的以外の成果）	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	2人	2人	1人	0人	0人	4.2
	総合評価	0人	5人	0人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生産された岡山県産天然系アユ種苗による冷水病への耐性が確認され、今後の種苗放流がアユ資源の回復につながる効果が期待される。 ・天然遡上アユを確保後の初期飼育における減耗、良質卵の確保などの課題が残されており、今後の試験研究においてそれらの課題が解決されることを期待したい。 ・「豊かな川づくり」の施策がもっとすすみ、天然アユの復活を期待している。 ・F3まで効果があるなら、例えば親魚養成を2年毎にするとか、冷凍精液を自作保存するとかでコストを削減できる。 ・良質卵確保については、親魚養成の経験豊富な高梁川漁協からアドバイスを受けられるはず。今後の進展に期待する。 ・天然親魚による種苗生産、種苗放流の技術開発とともに、河川で天然親魚が産卵できる環境づくり、アユの再生産できる環境整備へ向かうことのできる技術開発も必要である。 ・海産系であることも大切だが、他県産ではなく岡山県の河川に遡上してくるアユを親魚に使う点が重要だと思うので、他機関との連携も視野に入れて、より効率的な県産天然アユの新魚養成技術の確立に取り組んで頂きたい。 						